

令和5年度事業報告（事業の状況）

公益目的事業	本県木材関連産業の振興を図る事業
--------	------------------

（1）情報収集提供事業

本県木材関連企業における製品開発や加工利用技術の向上に資するため、秋田県立大学木材高度加工研究所の試験研究成果、木材・木製品に関する法令や制度の制定・改正情報、各種研修会や講習会の開催案内、木材関連の新技术情報、当機構の業務紹介などについて、情報紙及びホームページにより適時広範な情報発信を行うとともに、県内の森林・林業・木材産業及び木製品のプロモーションを行った。

1) 情報紙の発行

情報紙「木材加工最前線」を出捐団体や賛助会員をはじめ、県内の林業・木材関連企業や行政機関、県内外の試験研究機関等へ配布した。

発行回数：3回（99～101号）／発行部数：各号600部

NO.	発行部数	発行日	主な内容
第99号	600部	R5.7.31	木材高度加工研究所から～森林資源の持続的活用へ：元田特任助教 / 木材利用の波及効果と環境評価：藤田特任助教 ほか 木材加工推進機構から～秋田県林政の重点取組み / あきた木造建築塾がスタート ほか
第100号	600部	R5.12.27	木材高度加工研究所から～化学者としての木材研究（その1）山内繁教授 ほか 木材加工推進機構から～MOCTION写真集 / 木材利用提案コンクール / 木造・木質化建築賞 / 特別講演会 ほか
第101号	600部	R6.3.29	木材高度加工研究所から～化学者としての木材研究（その2）山内繁教授 / JSTプロジェクト「本格型」へ / 各種学会での木高研関係者の発表テーマ ほか 木材加工推進機構から～木高研講演会 / 中国木材の動きに関心 / JAPAN SHOP / 令和6年度の事業計画 ほか

2) ホームページの運用

当機構の業務紹介、各種研修会や講演会の開催案内、最新の木材製品情報、木材関連産業のトピックスなど各種情報をホームページに掲載し、広く情報の提供を行った。

◎ 更新回数：HP17回、FB15回 / トップページへのアクセス数：9,852件

3) あきた材ブランド発信事業（県受託事業）

① プロモーション動画等の制作

- ・森林・林業・木材産業及び木材製品のプロモーション動画制作（120秒×3本）
- 「巡る木あきた」Vol.1 山づくりと人づくり、Vol.2 技と伝統、Vol.3 循環と継承

② 首都圏展示会の開催及び運営

・森林資源の成熟に伴って増加する高品質スギ大径材等を、県産材の新たなブランドとして確立するため、住宅の内装等に利用した木材製品のプロモーションを首都圏で開催。

・会場：東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー5F 「MOCTION」

・運営期間：令和5年10月26日（木）～令和5年11月7日（火）

・展示内容：AKITA Wood Mania！

～マニアックなほど素晴らしい秋田の木と仕事～

ウエルカムゾーン、産学連携ゾーン、建材・建具展示ゾーン、建材・床材展示ゾーン、Living Style ゾーンの5つのゾーンで展示。

・来場者数：376名

③ 秋田県産材産地ツアーの開催

・住宅・非住宅の内装材等に利用する秋田県産材製品のプロモーションを展開することにより、さらなる需要拡大を図り、ブランド化の強化を進めるため、県外商社及び情報発信企業等を招聘し、1泊2日で秋田県産材産地ツアーを開催。

・日時：令和6年1月25日（木）～令和6年1月26日（金）

・参加企業：8企業（参加者15名）

・視察箇所：アスクウッド、ティンバラム(株)、秋田県銘木センター
道の駅ふたつ、つばめの森保育園

(2) 技術指導・移転事業

木材関連企業が抱えている木材製品の生産、加工、利用に関する技術的課題の解決をサポートするため、各種相談対応、現地指導、企業訪問、技術開発支援を行った。

1) 相談対応

来訪、電話等により企業から寄せられる諸課題に木高研と連携しながら対応し、必要に応じて資料送付、関連情報の収集提供、データ恵与、事例紹介などを迅速的確に行った。

◎ 相談件数：23件

① 内容別内訳

(件)

加工技術	生産技術	利用技術	情報提供ほか	計
0	5	6	12	23

② 業種別内訳

(件)

林業	木材加工	流通	建築設計	行政	試験研究	その他	計
1	8	2	0	3	1	8	23

2) 現地指導

企業からの派遣要請に基づき、当該企業が抱えている技術的課題の解決に適任の指導者を当機構の顧問、技術コンサルタントなどの中から人選し、直接企業に赴いての現地指導を行った。

◎ 顧問指導：0件 / 技術コンサルタント指導：1社

区分	指導日	対応者	依頼者	内 容
技術コンサルタント	R6. 2. 1	木材高度加工研究所 准教授 岡崎泰男氏	秋田地域振興 局建設部建築 課	・大断面集成材の大梁の腐食について

3) 企業訪問

木高研の研究成果の民間への移転可能性を探るとともに、企業ニーズを把握して研究課題に反映することをねらいとした企業訪問を実施した。

◎ 訪問企業数：69社（団体など含む）社（延べ）

林業	製材	合板	集成材	フローリング	プレカット
5	26	5	6	1	0
チップ	家具木工	建具	流通市場	工務店	その他
2	7	6	3	0	8

(3) 啓発研修事業

新製品開発に意欲のある企業や、社員の技術研鑽・知識向上に取り組む企業などを支援するため、公開講演会及び技術研修会を開催した。

1) 公開講演会

木材高度加工研究所の研究内容や成果を業界関係者、行政、他研究機関などへ広く周知するため、能代市、能代木材産業連合会と連携して研究所講演会を開催した。

開催日	会場	参加者	講 師	演 題
R6. 2. 8	木 高 研 研 修 室	57名	木材高度加工研究所 特任助教 藤田智郁氏	「木材利用における地域経済波及効果と温室効果ガス排出量」
			木材高度加工研究所 教授 山内秀文氏	「木高研におけるセルロースナノファイバー（CNF）関連研究」
			木材高度加工研究所 教授 山内 繁氏	「化学的視点の木材研究 －多様な木質バイオマス利用を目指して－」

2) 技術研修会

増加するスギ大径材を有効活用するための製品開発やプロモーション、組織づくりなどを学ぶことや、公共・民間施設における木材の利用拡大を図ることを目的としたセミナー等を開催した。

技術力・経営力向上研修会

開催日	会場	参加者	内 容
R5. 10. 2	能代市 プラザ都	31名	◎研修会 ・「秋田の森林資源の現状と木材産業の課題」 木材高度加工研究所 教授 高田克彦氏 ・「森林資源の成熟とある木材商社の変革」 物林株式会社 建設事業部 部長 田口慎二氏 ◎パネルディスカッション ・「大径材の利用、連携、技術力」について意見交換

あきた木造建築塾開催（県受託事業）

開催日	会場	参加者	講 師	演題・テーマ
R5. 6. 8	オンライン開催	25名	秋田県林業木材産業課 主任 山田理早氏 木材高度加工研究所 教授 高田克彦氏	・建築講座概要説明 ・「木材利用と炭素循環」
R5. 6. 22	オンライン開催	30名	木材高度加工研究所 准教授 野田 龍氏 木材高度加工研究所 准教授 渡辺千明氏	・「材料としての木材」 ・「建築と木材」
R5. 7. 13	オンライン開催	31名	秋田県立大学 教授 板垣直行氏	・「木造建築の変化」
R5. 7. 14	オンライン開催	37名	桜設計集団一級建築士事務所 加來千紘氏	・「木造建築物の防耐火設計 ～耐火部材の活用～」
R5. 8. 3	オンライン開催	24名	秋田公立美術大学 教授 小杉栄次郎氏 リリーアーキテクツ（株） 代表取締役 高橋理徳子氏	・「木材利用とデザイン」 ・「建築賞受賞作品について」
R5. 12. 26	秋田県 JAビル	59名	木構造振興（株） 客員研究員 原田浩司氏	・「変わること・変わるべきこと」

建築を学ぶ学生を対象にした設計コンペの開催（県受託事業）

開催日	会場	参加者	審査委員等	内 容
R5. 11. 16	秋田県 JAビル	5名	審査委員長 秋田公立美術大学 教授 小杉栄次郎氏 ほか委員4名	・木材利用提案コンクール応募作品の審査（応募作品数14点） 最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞1点、佳作3点
R5. 12. 26	秋田県 JAビル	59名	木材利用提案コンクール 表彰式 講評 秋田公立美術大学 教授 小杉栄次郎氏	・作品：表彰式会場に展示

木造・木質化の優れた建築物等について普及啓発を図る事業（県受託事業）

開催日	会場	参加者	審査委員等	内 容
R5. 11. 16	秋田県 JA ビル	5 名	審査委員長 秋田県立大学 教 授 板垣直行氏 ほか委員 4 名	・ウッドファーストあきた木造・木質化建築賞 の審査 木造A部門：最優秀賞 1 点 木質B部門：最優秀賞 1 点 木質化部門：最優秀賞 1 点 ：特別賞1点 リノベーション部門：最優秀賞 1 点
R5. 12. 26	秋田県 JA ビル	59 名	ウッドファーストあきた 木造・木質化建築賞表彰 式 講評 秋田県立大学 教 授 板垣直行氏	・受賞作品集 1,000 部作成

収益目的事業	木材に関する調査・研究等を行う事業
--------	-------------------

企業などから発注される次のような木材に関する調査・研究事業等を行った。

- 1 企業からの依頼により、製材品・集成材・家具等の強度試験、木材の含水率や摩耗などの物性試験、耐火試験のほか、ホルムアルデヒドの放散量測定など、製品の品質管理や新製品開発過程などで必要とする各種の試験を実施する。
- 2 大学などが発注する木材の調査・研究に関する業務を受託する。
- 3 自治体などからの依頼を受け、木製ダム・木柵・木橋等の木製構造物の劣化等の診断をする。

◎依頼件数：58件

分野	件数	主な試験内容
強度試験	28件	<ul style="list-style-type: none"> ・集成材の曲げ試験 ・椅子の各種強度試験 ・壁の面内せん断試験 ほか
物性試験	14件	<ul style="list-style-type: none"> ・製材の含水率試験 ・減圧加圧剥離試験 ・接着性能試験 ほか
耐火・燃焼試験	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼試験 ・発熱性試験 ・耐火試験
その他	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・パーティクルボードのホルムアルデヒド放散量試験 ・木橋の穿孔抵抗測定 ・木製構造物の積算等に係る調査 ほか

貸借対照表

令和6年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	23,176,148	18,736,058	4,440,090
未収金	3,256,500	5,119,500	△ 1,863,000
前払金	26,730	0	26,730
流動資産合計	26,459,378	23,855,558	2,603,820
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
投資有価証券	430,824,000	422,182,000	8,642,000
基本財産合計	450,824,000	442,182,000	8,642,000
(2) 特定資産			
定期預金	115,000,000	115,000,000	0
特定資産合計	115,000,000	115,000,000	0
(3) その他固定資産			
電話加入権	144,000	144,000	0
備品	776,475	1,238,175	△ 461,700
その他固定資産合計	920,475	1,382,175	△ 461,700
固定資産合計	566,744,475	558,564,175	8,180,300
資 産 合 計	593,203,853	582,419,733	10,784,120
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,852,230	1,230,401	621,829
預り金	312,344	136,238	176,106
流動負債合計	2,164,574	1,366,639	797,935
負 債 合 計	2,164,574	1,366,639	797,935
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	442,182,000	509,114,000	△ 66,932,000
基本財産評価損益	8,642,000	△ 66,932,000	75,574,000
指定正味財産合計	450,824,000	442,182,000	8,642,000
(うち基本財産への充当額)	(450,824,000)	(442,182,000)	(8,642,000)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	591,039,279	581,053,094	9,986,185
負債及び正味財産合計	593,203,853	582,419,733	10,784,120